

2016年度 清瀬青年会議所
副理事長運営方針



副理事長 内田 健介

清瀬青年会議所が誕生してから諸先輩の行ってきた運動、情熱は後へと続く会員へ受け継がれ、本年で36年目を迎えました。私は本年度、副理事長という役職を務めさせて頂くこととなりましたが、副理事長という役職は組織の事業の質を決定づける、また会員の育成も担う重要な立場であると考えます。

本年度、副理事長として担当する清瀬人(キヨセイト)育成委員会は、青少年育成事業を主として4事業を担当します。現在の会員数で事業を成功させる為には、会員一人ひとりの責任と行動力が今まで以上に求められます。そこで委員会運営には委員会の会員のみならず、周りの人を取り込み動かす求心力が必要です。そして青少年育成担当委員会として先ずは時代の中で必要とされているものは何か、青年会議所として何が出来るのかを考え行動に移していきましょう。現代の子供達を取り巻く環境を考慮し、子供達に伝えたい事、感じてもらいたい事をつなぎ合わせ、子供達が興味を持って取り組める事業を展開していきましょう。

一方で、担当する委員会を組織として機能させる為に、自分自身が青年会議所活動で学んだ事や感じた事を伝え、委員長の舵取りの道しるべとなるように取り組み、共に成長が出来るように努めてまいります。また会員同士が助け合える関係、本気で議論出来る環境作りをし、人との繋がりを大切にします。

会員拡大に関しましては、現在清瀬青年会議所に限らず全国的に会員減少の傾向があります。しかしその中でも会員が増加している地域も存在します。その違いは拡大に結果を求め、行動に移しているか、という点であると考えます。会員拡大の為にもまずは、口先だけではなく実際に行動を起こす事が必要です。入会候補者には常に声を掛け、この団体の魅力である「確実に成長する機会を与えてもらえる」という事を伝えます。その上で共感してもらえりような運動を展開し、少しでも青年会議所に魅力を感じてもらえる取り組みを行っていきます。そして入会候補者とは青年会議所活動だけではない接点を持つようにし、今まで以上に繋がりを持った関係を築いていくようにし、新入会員の獲得という結果へと繋がります。

今年度のスローガン「倦まず弛まず」は、諦めたり投げ出したりせずに行動をし続けるという意味があります。副理事長としてその気概を胸に運動に取り組み、「良いものには良い、悪いものには悪い」とはつきりと言う、妥協をしない自分を貫きます。

最後に、副理事長という役職を頂いた事に感謝をし、その責務を全う出来るよう責任を持ち取り組み、活気ある青年会議所を目指してまいります。一年間どうぞよろしくお願い致します。